

図解 資材管理用語辞典

工 学 博 士

南 川 利 雄 著

日 刊 工 業 新 聞 社

著 者 略 歴

南川利雄 (みなみかわ としお)

明治44年 横浜にて生まれる。

昭和27年 最終学歴として日本大学工学部
機械工学科卒業。さらに昭和28
年、同大学経済学部経営学科を
卒業。会社役員、国鉄と電電公
社の委員や顧問、日本大学教授
などを歴任。

現 在 日本生産科学研究所長、日本資
材管理者協会副会長。通産、郵
政、運輸、電電の各委員、工学
博士、技術士。

図解 資材管理用語辞典

NDC 336.67

昭和50年9月30日 初版発行

(定価はケースに表
示されています)

◎ 著 者 南 川 利 雄

発 行 者 吉 川 育 太 郎

発 行 所 日 刊 工 業 新 聞 社

東京都千代田区九段北一丁目8番10号

(郵便番号 102)

電話東京 (263) 2 3 1 1 (大代表)

振 替 口 座 東 京 186076

印刷所 新日本印刷株式会社

製本所 松 本 製 本 所

落丁・乱丁本はお取り替えいたします

は し が き

まことに僭越なはしがきとなることをご海容下されたく、まずおねがいしておく。

資材管理を、古く 40 年も前から専門的に学問的に研究し実践してきたものは、上野陽一先生、神馬新七郎商学博士、小野寛徳先生、そして私である。上野先生、神馬先生からは親しくお教えをうけたが、いまは亡く、現在では小野先生と私だけになってしまった。いまでは小野先生から何かと御指導を賜っている。

このかん私は、材料管理から資材管理へと道をひらき、資材管理の分野に、資材管理政策、資材管理一般、資材計画、在庫管理、購買管理、外注管理、倉庫管理、保管管理、運搬管理、設備管理、価値工学、そしてこれらに関するシステム関係部門などをふくませて、展開してきた。

幸いこれまで私は、これらの全部門にわたってそれぞれ我流の所見を 5 ないし十数冊ずつ公刊して、すでに百十数冊を数え、世の方々のご批判を仰いできた。そしてもはや 30 年にもおよんで経営学の最高権威者である野田信夫先生、古川栄一商学博士と、経営分析学の創設者である西野嘉一郎商学博士から格別のお教えをうけて、資材管理の勉強をいまもなお続けている。

野田先生、小野先生、私の 3 人が 3 年がかりで想を練り、昭和 33 年 (1958 年) 5 月 20 日に野田先生を会長に小野先生を副会長に神馬先生と西野先生ほか最高権威の学者、一流企業の社長の方

方を副会長や理事がとなり私は専務理事として日本資材管理者協会を設立して今日にいたっている。

そもそも資材管理なる用語は私が昭和 15 年 (1940 年) につくり、運搬管理なる用語も昭和 18 年 (1943 年) につくり、ようやく認められて今日のように普遍化された。また倉庫管理にあっては各種の技術的な展開を試み、いまはやりのハイ・ラック・ビルなどは昭和 35 年 (1960 年) 2 月に私の立案で刈谷市にある日本電装株式会社本社工場内に世界で初めて設立し、またオンライン化されたコンピュータによる立体自動化倉庫も昭和 41 年 (1966 年) 5 月に私の設計監督で富士重工業株式会社大宮工場敷地内にスバル部品センターとして、これも世界で初めて竣工をみた。

こうした恵まれた環境下にあって、資材管理用語は私のつくったものが多く、私の乱作の小著の中で示してきた用語を、このあたりで資材管理用語辞典にまとめて、たとえ少しの用語でも解釈の統一がはかられたらとねがって、僭越ではあるがすすんで私の著書としてこの小著をつづったわけである。

そこで、この小著のまとめ方としては、たんなる用語の辞典でなく、解説を加えその解説もいわゆる解説にとどめずに、頁を開くごとに図をいれて、用語によってはその方策や対策までも略述して実務に直結できる内容を備えた。そして解説に当たっては、なるべく公正な解説をしたつもりであるが、あるいは中には我流のものになったものがあるかもしれない。その節はご寛容を乞うしだいである。

用語の採録は、頁数のつごうで一般的な用語を主とし、企業体固有のものはなるべくさけて、1700 語にとどめたのでこれは用語のすべてではない。重要なもの必要なものが脱落しているとき

はご容赦いただきたい。

なお日刊工業新聞社の発行になる経営工学用語辞典，新版 IE 用語辞典，図解物流用語辞典に収録されている資材管理関係の用語は，この小著の性質上割愛できぬものを除いては，重複をさける意味でこの小著からははずした。したがって不採録の用語は上記辞典をご参照願いたい。

用語の採録の範囲は，資材管理の範ちゅうに入っている部門からとし，資材管理一般，資材計画，在庫管理，購買管理，外注管理，倉庫管理，運搬管理，価値工学のものを採択した。この中からなるべく常用語を選択し，各部門に共通なものは資材管理一般の部門に入れて上記の順で巻尾に索引を設けた。

英語は，1972 年に国際資材購買管理連盟 (IFPMM) で私も参加して，一部分ではあるが世界的に統一した用語があるので，わが国の用語で該当するものはそれを採用した。

わが国だけの用語は数多くあり，その中で英語化できるものは我流英語のそしりをうけるのを覚悟で記した。この点誤りがあるときはご叱正を賜りたい。すすんで修正をして正しいものに訂正していく所存である。

末尾に英語の索引も設けておいた。

経営管理，工場管理，生産管理，資材管理などを実際に現場で行なう場合，私はまず用語の定義をその企業体なりにきめて統一をはかってから作業をすすめるのを常とし，またそのようにすすめている。

よってこの小著は，資材管理関係の用語として，私の頭の中にある辞典を，いわば活字として一冊のものに整理したもので，少しは世間のお役にたちたいとねがったものである。

こうした種類の辞典は、おおむね分担執筆であり、単独で執筆したものは稀である。その無智無謀さにもかかわらず、お願いした出版をあえて快諾して下さった日刊工業新聞社出版局の方々に、心から感謝の意を表するしだいである。

昭和 50 年 9 月

南 川 利 雄

凡 例

項目名の配列

1. 日本語，外来語，略語を五十音順にならべた.
2. 外来語はカタカナで示し，また ABC, VE など日常使用されている略語は英字で示して，その読み方の順にならべた.

記号，略字の説明

1. $\Rightarrow$ は，つぎに示す項目と同意義であることを示す.
2. $\Rightarrow$ は，つぎに示す項目は関連語，参照語であり，説明してあるゆえ参照せよの意味.
3. t, T は，トン.
4. kg は，キログラム.
5. km, KM は，キロメートル.
6. m, M は，メートル.
7. mm は，ミリメートル.
8. m^2 は，平方メートル.
9. ft は，フィート.
10. m/min は，メートル/分.
11. sec は，秒.
12. m/sce は，メートル/秒.
13. $^{\circ}\text{C}$ は，摂氏温度.

あーア

IFPMM International Federation of Purchasing and Materials Management 国際資材購買管理連盟のこと。1965 年 5 月、国際購買連盟 (IFP) としてわが国も参加 14 カ国 15 協会で結成発足。それが 1974 年 5 月に資材管理を追加して名称を変更し参加国は日本、オーストラリア、ベルギー、カナダ、フィンランド、フランス、ドイツ、インド、オランダ、ノルウェー、スウェーデン、スイス、イギリス、アメリカ、チリ、イスラエル、ニュージーランド、イタリア、アルゼンチン、ポルトガル、オーストリア、デンマーク、メキシコ、フィリピンの 24 カ国 26 協会となった。はじめ購買研究を主体として発足したが、世界の実情は資材管理に重点をおくようになり IFPMM となった。

隘路資材 neck materials いつも不足したり、不良になったり、問題が起きたり、入手難であったりして生産に支障をきたす資材のこと。別にネック資材ともいう。こうした支障の発生要因、発生度合、発生量、発生時期、発生回数などをよく検討して、事前にそごをきたさないようにするのに専門要員をおいて対処することがある。それほど重要視されるもの。⇒ネック (221)

隘路資材管理 management of neck materials 不足資材、入手難資材はほかの企業においても同様にあるので、この資材に重点をおいて管理するもの。この管理の内容としては、入手難資材の取得管理、取得計画、取得案内、不足事態の発生防止、事前検討などがある。おおむね隘路となる資材は一定しているので、それに着目して未然に隘路発生を防止するのが、この管理の主要素となる。⇒隘路資材 (1)

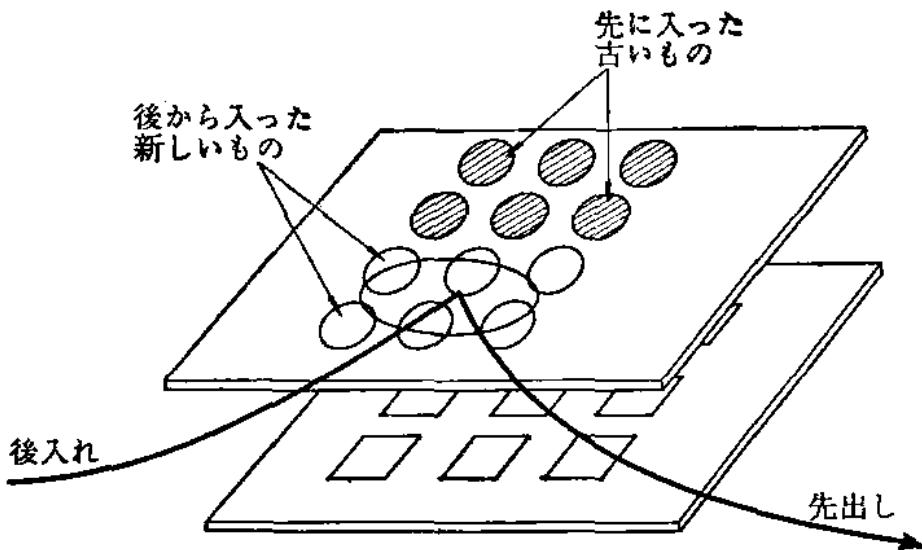
アウトプット output 出力のことであるが、資材管理用語としては、ある状態からデータを取り出すことを意味する。また取り出すための装置をさすこともある。機械化されたり、コンピュータを利用するときに多く用いられる。

アキュムレーション・システム accumulation system 蓄積装置。倉庫、運搬管理において、物品の流れをひとつのライン上において停滞させ蓄積していく方式。流れてきた物品を、あるユニットにまとめたり、ひとまとめにしてしばらく存置させたいときなどに用いられる装置。機械化した蓄積装置の場合は蓄積できるコンベヤ・ラインをおもに使用する。このラインをアキュムレート・ラインといっている。自動化された倉庫設備の一種として多く採用されている。

預り在庫 taking charge of stock 購買契約をしてないのに取引先の

物資を当方に保管してあるもの。したがって所有権は当方はないが、道義上の保管責任は当方にある預かり物資の在庫。また、販売契約をした製品を販売先が必要とするまで当方に保管している在庫をさす。この場合、所有権は当方はないが、保管責任は当方にある。

後入れ先出し法式在庫管理 last-in first-out inventory control system
後から入庫したものを先に出庫する方式の保管方法。一般に先に入庫したものを先に出庫させるのがふつうであるが、この方式では反対となり、後から入庫したのから出庫するので、残ったものは古いものばかりとなる。古いものが残りすぎると使いものにならなくなる。その現象をあえてとらえて、目に見える現物から在庫管理をする方法。現物を取り扱う場合にも、後から入庫したものを出庫しやすい手前に保管することになるので、便利なことから、この方式が採用されるようになった。直行方式法ともいう。



品物の後入れ先出し法

アドレス address 所番地。倉庫業務や運搬を機械化する場合に、物品を保管格納する場所に設定する番地番号。設定された番地に指定物を保管したり運搬すると管理上便利だからである。

アドレス指令装置 address order unit 主として自動化された倉庫設備や運搬設備に使用される装置で、保管場所や運搬場所の番地（アドレス）に、物品を送り込んだり引き出したりする指令装置。クレーンなどを作動させる場合は、目的の番地にいくように指令を与え、また現在の位置を監視する装置。⇒アドレス(2)

アドレス制御装置 address control unit アドレス指令装置より指令をうけて、目的の番地へいくための作動を判断し、走行、横行、減速、停止などの動作を制御する装置。主として倉庫設備、運搬設備用のもので現在はスタッカ・クレーンに多く使われている。

アフター・サービス after service 事後奉仕。機械装置を購入した場合、その設置後における故障時の修理や改善作業の機敏さが要求される。その処置をすること。

油庫 oil warehouse 油類を入れる倉庫。危険物類の保管場所に該当するので、危険物類の取扱法の法律にふれるから、この倉庫の設置には消防署の許可と認定が必要となる。油の種類や保管する数量によって設計内容が異なるので、消防署と事前に協議することがのぞましい。油庫に起因する事故が多いので、とくに注意を要す。常時見回りし内部に規定外の物品を置かず、清掃しておく。

アプリケーション・システム application system 一般には機械化に適する業務の方式をさすが、現在はコンピュータが適用された問題や方式をさしている。これには演算処理が中心になるものと、データ処理が中心になるものがある。在庫管理でコンピュータを利用する場合、コンピュータを利用する技術が必要となる。この技術の中で利用者が共同して使えるための応用技術をさすこともある。

アプローチ approach 資材管理を行なっていて、何かの出来事に対する解決策や、新機軸を開拓する場合に、関係者に話をもちかけたり、推進をするように交渉をはじめたりすること。とくに、開発的な要素をふくむ業務を推進する場合に、多く用いられる。この交渉をひとつの体系のもとに、組織的に取り組むとより効果がある。

安全在庫 safety stock 在庫品に品切れが生ずると生産に支障をきたし、販売に支障をきたすので、品切れを防止するために保管している余分の在庫。この余分量が多すぎると過剰在庫になり、少なすぎると安全性の役にたたなくなるので、安全在庫をさせる物資が、品切れがあってもよいのか、品切れがあってはいけないのかを決定してから安全在庫の適否をきめる。→安全性(3)

安全在庫量 quantity of safety stock 品切れを防止するために保管している余分の在庫量。在庫量の意味は、在庫数量とも在庫重量とも解される。ただ在庫量といった場合には、当該企業が常用している方をさすことになる。安全在庫量は、使用量、入庫量、入庫日などを予測して算出する。この算出には、計数を利用するもの、要素判定にもとづくもの、過去の実績によるもの、将来の予想値に主体をおくものなどがある。

安全出庫 safety shipping 倉庫から資材を安全に出庫すること。この場合の安全とは、人間の安全はもとより、資材に対する安全、諸設備に対する安全もふくまれる。さらに、数量の誤りのないこと、品質に低下のないこと、生産作業に支障を及ぼさないこと、などもふくまれるようになった。科学的な倉庫管理はそこまできている。

安全性 safety 安全を重要視し実施すること。安全性を無視した作業は成り立たない。倉庫管理、運搬管理の作業にあっては、安全性は絶対的な確保要件。安全性は安定静態、安定動態から生まれる。購買業務においても、安全性のない資材は対象外とすることが叫ばれている。

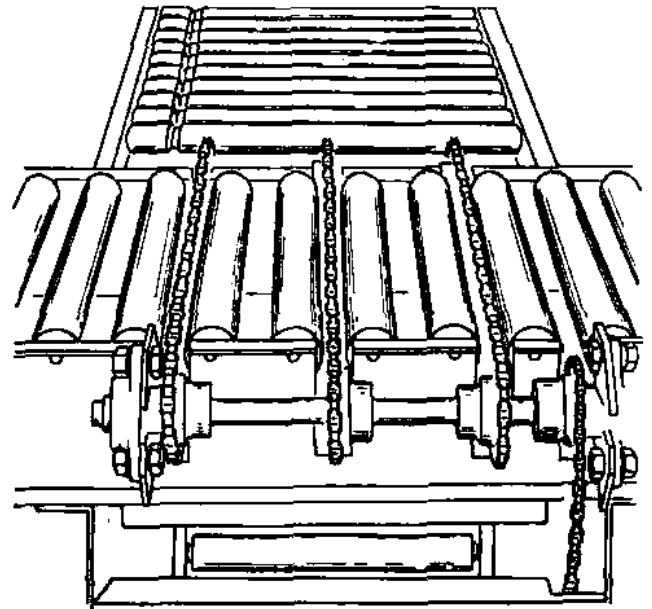
安全方策 safety method 人の労災防止、物の損傷防止、設備の破損

防止、環境の破壊防止、仕事の事故防止などの方法と施策、安全性を確保するための方策。⇒安全性(3)

アンローダ unloader 荷おろし機械。現在では主として埠頭や駅頭において、荷おろしに使用する機械をさしている。この機械には手動式、自動式があり、最近ではトラックの荷おろしにも多く使用されている。

い—イ

移載装置 transfer unit コンベヤ上で物品を送り、途中でほかの方向へのせかえをする装置。手動式と自動式とある。のせかえの方法も、物品を押す方式、持ち上げて移す方式、転倒させる方式、滑らせる方式、ガイドをつけて誘導する方式、コンベヤ機構の一部が方向をかえる方式、など各種ある。物品を損傷しないでのせかえねばならず、物によっては物品の方向性を変えてはならぬものと、かえたいものがあるので、それに対応できる機構と性能が必要。



移 載 装 置

維持補修用在庫品 stock for maintenance repair and operation

設備、機械などをたえず異常なく稼働させるための維持補修に使用される成品、部品、資材などの在庫品。この維持補修方法には、設備や機械が破損してから修理するものと、破損する前に予防的に補修しておくものとの2通りがある。前者の場合だといつ破損するか不明なのでときとすると在庫品が長期にわたることになり、後者の場合は予防保全方式といって、おおむね一定時期に補修していくので長期在庫品となる懸念が少ない。

易損品 fragile items 鉄道小荷物運送でこわれやすい品物を扱うときにできた用語。いまは倉庫管理、保管管理、運搬管理などの場合に使われている。陶器、ガラス器、紙細工、竹細工などの類。

委託購買方式 trust buying 物品を購入する業務を外部に委託するもの。重要でない資材、問題の起こらない資材をおもに委託する。この種の資材を自社で直接に購買していると、各種の帳票が多く使用されるば

かりでなく、経費もかかるので外部の業者に委託して事務の合理化と、経費の節減をはかるもの。

- 一時的停滯品 現場、保管場、倉庫などに一時的に停滯する物品。一時的に停滯するのだから在庫管理上は不良現象ではないが、それがいつのまにか一時停滯でなく長期停滯となる状況がよくあるので、この一時停滯品には注目しておく必要がある。一時停滯は、計画の誤り、作業の乱れ、工程管理の不具合、同時に必要とされるほかの物品の不揃いなどの状態から生まれる。しかし生産計画にそった計画的な一時停滯なら問題視するに当たらない。
- 一回発注数量 order unit 購買品あるいは製作品を注文するときの1回ごとの注文数量。しかし1回の注文数量は必ず同一数量となるものでなく、注文時点の経済情勢、資金状況、資材の状態などの要素によって異なることがある。1回に多量に注文した方が得策か、1回に少量ずつ注文した方がよいかを上記の要素などから判定する。
- 一括外注 lump-sum subcontract 外部の工場に部品や成品などの加工作業を発注する場合、それぞれ専門とする工場に別々に発注するのがつねである。それを、信用のおける工場に一括して発注するもの。たとえば、部品の機械加工はA社に発注し、そのめっきはB社に発注している場合、A社が信用がおければA社にめっき加工までふくめて一括発注する。またこのように関連のあるものに限らず関連のないものを一括して発注することもある。
- 一括購買方式 lump-sum purchasing system 特定の業者から一括して購買するもの。数多くのものをそれぞれの販売先から別々に購買すると、それ相当の手続きと伝票が必要となるので、その繁雑さと余分な経費を削減する場合にとる方式。→購買(93)
- 一斉棚卸法 simultaneous stocktaking ある時期を定めていっせいに、帳簿と現品のあり方を照合し、現品の保管具合を検討するもの。この棚卸法は、倉庫への入庫倉庫からの出庫を棚卸期間中は中止するので、一般の企業では日曜祭日に行なう。したがって棚卸担当者にとっては臨時出勤といううき目をみることになって、現在では苦情の種となっている。→棚卸し(187)
- 一般公開入札 open bid 物を買い入れるとき、一般に公開して、入札の告示をし、自由に応札者を求め買入れの要点を示し、だれかれの区別なく公募のうえ、要点に応じた条項を記入した一定の書類を、一定の容器に入れてもらい、最低の価格を提示したところから買入れをする方法。求める物品が、どこから買っても同一の品質が得られる場合はこの方法はよい。しかし品質管理をする必要が生ずる場合は難点がある。その理由は、この形式による買い方はそのとき限りの取引きとなるからである。→公開競争契約(89)、入札(218)

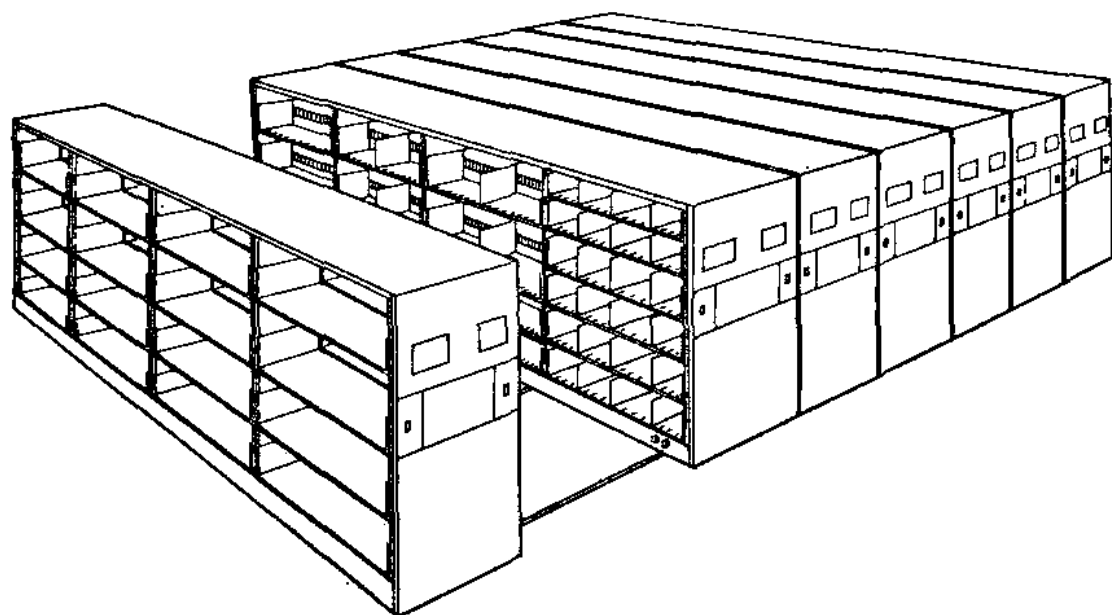
一般市場品 popular market materials 市中で一般的にどこでも販売されている物品。一般市場品ならことさら購買手続きを経ないで、その場で買ってくる方が得であると主張するときなどにこの用語を使用する。

一般用品 popular supplies 一般的に使われる品。資材管理の場にあつては、帳簿、文具用品などの事務用品とか、衣料品、雑用品などの一般的なものをさす。一般用品は正規な購買手続きを経ないで、随意に買わせる傾向が多い。そのひとつの方法として、一般用品の納入業者に、曜日を定めて出向させてその場で必要な者に直接に買わせる方式を採用することもある。

移動 movement 物の位置をかえること。移すこと。移動には小はピンの移動から大は建物の移動まで各種のものがある。生産の場における移動は、移動することによってなんらかの価値を生むことをもってよしとしている。そして、むだな移動は極力さけている。移動も運搬の一種。生産の場、建設の場、消費の場、生活の場などあらゆる場面に移動はある。移動は2点間の物の移動であり、それが数点間におよんでいくこともある。物の移動のない生産はありえない。

移動工法 movement technique 物の位置をかえることの技術的手法。移動の仕方。この仕方いかんによって移動に要する費用が高くもなれば、安くもなる。また不安全、不安定にもなるし、安全にも安定にもなる。それらを満足させる手法が移動工法。この工法には、人力工法、道具工法、重力利用工法、機械工法など各種ある。むりなくむだなくむらなく移動させるのが、この工法の眼目。→移動(6)

移動棚 mobile rack ; shiftable stack 棚が動く形式のもの。動かし方には人力によるものと機械力によるものとあり、棚は文書用と物品用とある。棚が動く方向は、縦方向、横方向、回転、上下動などと各方向のものがあるが、現在普及しているのは横方向で、棚に出し入れをしないときは棚間隔をなくして寄せあつめ、ものを出し入れをするときは所



横方向移動棚

定の棚のところだけを開けて行なう。

因果的価格 価格を算出する場合に、因果関係のあるもの。たとえば、所要資材において取引上のひもつきなどの因果関係とか、使用部品において銘柄を指定された特定のものであるとか、資材や部品を特定価格で供給されることを余儀なくされたものとか、加工上において指定のあるものなど。

インダストリアル・エンジニアリング industrial engineering 略して IE. 生産をするために必要な人間、資材、設備などを総合的にとらえて設計し、システムを組み、これらの運営を機能的に行ない、数学、自然科学、社会科学などを積極的に応用して科学的な管理、技術を生産活動に注入するもの。IE の手法を資材管理においてとくに多く用いられるのは、作業測定、作業分析、オペレーションズ・リサーチ、システム・エンジニアリング、シミュレーションなど。

インプット input 入力。処理されるデータなどを入れること。資材管理にあっては、各種のデータを収集するのがつねである。それを人力で処理しては時間がかかるので、コンピュータに入れて処理をする。そうした際に使用される。

うーウ

受入れ acceptance ; receiving 購買または外注契約をした物品が搬入され、受入れ検査に合格し、数量、納期ともに合格して購買責任者が受入れを可としたものが受入れとなる。この時点で所有権が移転する。搬入しただけでは受入れとみなされない。検査に合格してもそれがただちに受入れにはつながらない。検査は購買契約の仕様に合っているかどうかの合格不合格の判定をするものであり、購買責任者が受入れ可、受入れ不可の判定をするものだからである。

受入れ検査 acceptance inspection 購買あるいは外注契約物品を受入れるための検査。これは検査であって検収や受入れではない。→検収(87)

受入れ場 acceptance place ; receiving place 受入れが可となった物品を置く場所。受入れた物品は所有権が当方に移っているので、この場所にあっては保管の責任が生ずる。原則として、この場所に物品が移った時点から火災保険、盗難保険を当方でかけることになる。

受入れ品 acceptance materials 注文した品が持ち込まれ受入れ検査に合格して、購買責任者が受入れてもよいと判定した物品。検査に合格しても、その物品の納期が遅れていたり、数量が要求数量に満たない場

合は、購買責任者は受入れを不可とする場合がある。

請負契約 contract 当事者の一方がある仕事を完成することを約束し、相手方がその仕事の結果に対して報酬を与えることを約束することによって効力が発生するものをいう（民法 632 条にこの定義がある）。外注はこの契約に属することになる。

受け工法 acceptance technique ; receiving technique 運搬物を受け入れる場合の受け方の技術工法、荷受けの仕方。荷を受けるときはとくに荷の重量と高さが問題で、重量に対しては、重いものは必ず機械で取り扱い、人力で作業をすると危険。高さに対しては、搬入に便利な高さ、保管に有利な高さ、搬出に便利な高さ、などを考慮する。

受即払い品 受入れてただちに払い出される物品。受入れると在庫勘定に入れ、払い出されると在庫勘定からとり去る。この場合でもその手続きをとるが、場合によってはその事務手続きを省略するために、在庫勘定には入れないこともある。企業によっては素通り品、出抜け品、直行品などといっている。通常の場合のように、いったん保管物に納めてまた払い出す手間が省けるため、在庫を必要としないものはこの考え方を採用している。

内口銭 internal commission ; internal margin メーカーが基準となる売値をきめ、販売者はその中から一定の手数料を受けること。また、商社あるいは問屋が基準となる売値をきめ、小売店はその中から一定の手数料を受けるもの。購買者側にあっては、買い入れる物品の価格が内口銭になっているか外口銭なのかを確かめる必要がある。内口銭なら手数料は、とうぜん購買者は払う必要がない。外口銭であるところの手数料について、その適正さの問題でさらに折衝をする必要が生ずる。⇒外口銭 (183)

売り手市場 seller's market 品不足で売り手の方が強い状況のこと。

売場倉庫 store warehouse 倉庫そのものを売場とするもの。売場へ商品を持っていくには、まず倉庫を通過するのが一般のルートである。そのルートの短縮のために通過させずに、倉庫をきれいにしておいてそこで販売し、商品の売場への持込み経費と労力を省略したもの。配達を必要とするものは、そこからただちに配達する。

運搬 materials handling ; materials management 目的を持って物の位置を移動させることのすべてをいう。この目的には、生産目的、使用価値の増大、付加価値のための手段、使用目的を達成するため、材貨のたんなる移動のためなどがあげられる。物の位置が移動することは、自動的であろうと他動的であろうとを問わず、運航、荷役、輸送、運輸、一般にいう運搬、流動、移動、働きの中の動きなどのすべてがふくまれる。

運搬回数 number of materials handling 物の位置を移動させてい

る回数。運搬回数は少ないのにこしたことはない。運搬回数が多くなればなるほど運搬費用は増し、運搬時間がかかる。それに不安全のチャンスが多くなる。

運搬活性 handling liveliness 物の運ばれやすいこと。また、運ばれやすいように物があること。物が置かれている状態によって、この運ばれやすさは非常にかわってくる。物はそこに置かれたからには、またつぎに、どこかへ運び出されるので、そのことを満足させるものをいう。

運搬活性示数 index of handling liveliness 運搬活性の程度を示す数。この示数は、物の置かれている状態、物の運ばれている状態などによって判定はまちまちなので、まだ確定したものは算出されていない。要するに、物がいきっていて動かしやすく、動かされやすい状態を示す数をとらえて、運搬の合理化をはかるもの。➡運搬活性 (9)

運搬監査 audit of materials management 運搬管理を実施した後の結果の良否を検討する手続き。この内容には、運搬実績を調査し、計数的技術的に把握して成績の算定をし検討するもの、運搬結果を物別と区間別に品質上、数量上、時間上、速度上、作業方法上、安全上、経済性上などから評価するもの、運搬数量と運搬距離と運搬費の統計をとるもの、運搬の統制をとるもの、以上の総合結果より全体評価するものがある。

運搬管理 materials management ; materials handling 原材料、半成品、不要品など物のいっさいを対象とし、その置き場、置き場へ運ぶ仕事、位置の変更と移動の仕事を一貫して適正に計画し、管理し、よりよくなるように実施すること。運搬する作業だけを管理するものでなく運搬作業をとりまくほかの作業と管理、前後にある作業と管理をも合わせて対象とするもの。管理形態を計画、実施、監査の三要素とし、これを繰り返し行ない、1回限りで終わることのないようにする。略してMM, MH. ➡運搬 (8), マテリアルス・マネジメント (269)

運搬管理技術 materials management engineering 運搬管理と運搬技術とそれを総合したもの。運搬を管理することの基礎技術、運搬作業を合理化する方策を計画する計画技術、運搬物を実際に取り扱う実施技術。運搬合理化方策を実施した後の結果の検討をする監査技術よりなる。

運搬管理基礎 base of materials management 人間性の尊重、利潤の追求、生産活動への補助、資材活動との同調が基本的な基礎となるので、それをさす。運搬管理を行なううえに必要な基礎。実態としては運搬管理の原則を貫くもの。

運搬管理基礎技術 basic engineering of materials management 運搬管理を遂行するための基礎的な技術。経営上と技術上の運搬理論をふまえたもの、経済面と技術面と設備の配置面と労務面と総合的見解とに対する運搬関係、摩擦やころがりや重力や空気力や機械力などを研究す